

相談支援従事者指導者養成研修 ケアマネジメント基礎コース 令和4年7月1日（午前）

前日の【講義・演習】ケアマネジメントにおける
アセスメントとその教育方法の振り返り

かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク

岡西 博一

相談支援専門員の専門的能力の習得

平成 28・29 年度厚生労働科学研究「相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究」

相談支援専門員が業務を遂行するために必要な専門的能力として

「相談支援専門員にはサービス等利用計画作成を中心としたアセスメント及びプラン作成能力に加えた、他職種との連携・調整する力、チームアプローチのためのネットワーク形成力、利用者の主体性を引き出す力が必要」であることが明確となる。



厚生労働省 平成30年度障害者総合福祉推進事業「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業」

これらの専門的な力を修得するための相談支援従事者研修の進め方を分析し、モデル研修の開発を行う。初任者研修及び現任研修ともに、「**演習による実践的な能力の修得が重要**」とされ演習プログラムが拡充された。

初任者研修におけるアセスメントの経験的学習

初任者研修演習1 「科目のねらい」 (初期相談からアセスメント)

- 基本相談支援の実際について理解する
- 受付や初期相談（インテーク）、契約の各場面で求められる実践的な技術を習得する
- 利用者の主訴を明確にし、本人・家族等からの情報収集を行う技術を習得する
- アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を習得する
- グループ討議を活用し、チームでの支援の重要性と効果、グループ討議の基礎的技術を体験的に理解する



アセスメントの経験と概念化を促す為の「共通事例」と「標準ツール」の活用
(見立てと手立てを導くアセスメントの精度を高める演習 (学習機会) を提供)

= 地域や講師による教育方法、受講者の学習効果のバラつきを是正した学習機会の提供

初任者研修で大切なアセスメントの可視化ツールの導入

指導者養成研修基礎コース6.30橋詰氏資料（再掲）

- 標準化カリキュラムの意図
（質の向上に向けた研修カリキュラムの変更の経過の理解）
- 都道府県ツールとの比較・共有化
（アセスメントからニーズ整理までの思考の視覚化により、真のニーズや見立ての仮設の根拠を示す研修ツールとなっているかの自己点検をお願いします！）

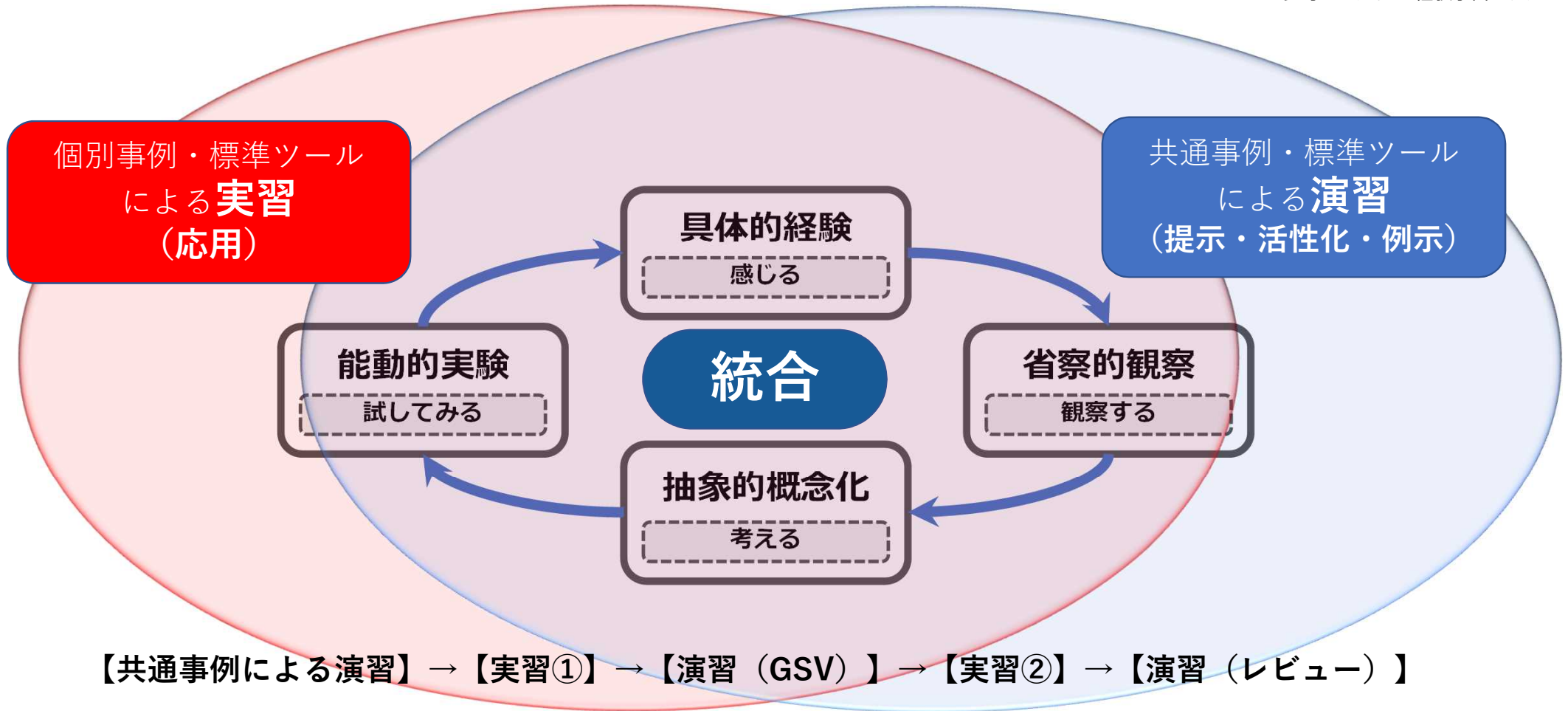
※発表する目的とアセスメント力を養う目的の両方がある（演習）

本日は、初任3日目の演習講師と受講生の両面を経験頂きました。
振り返りは、地域に戻っての実習の体験にもつながる部分かと思います。

- 研修全体の構造と流れの再確認（役割分担型のその日のコマの企画の張り合わせではない）
- 最終的にねらう相談支援の質の向上に向けた研修の入口に位置付ける
（構造化された研修システム：初任⇒現任⇒主任への流れの中で、最初に受講するのが初任者研修である。）

演習＋実習における教育方法、受講者の経験的学習（全体像の理解）

参考：コルプの経験学習モデル



「ケアマネジメントにおけるアセスメントと教育方法」の振り返り

- 前日の科目からの「気づき」、現状において「出来ていること」や「課題」などをコメントし、グループで共有します。

① 個人整理（コメント準備）	1分
② コメント	1分×グループ人数

参考項目（以下の項目から1～2項目程度の振り返りをコメント）

- 標準カリキュラムの意図の理解
- 都道府県ツールとの比較・共有化
- 科目「ケアマネジメントにおけるアセスメントと教育方法」の目的の理解
- 研修全体の構造と流れの理解
- 相談支援専門員の人材育成に係る初任者研修の位置づけと現任、主任研修との関係の理解